

令和 2 年 4 月 27 日

## 火山噴火予知連絡会 第 1 回口永良部島部会による 口永良部島の火山活動の評価

口永良部島では、2019 年 10 月以降火山活動が高まってきており、時々噴火が発生しています。また、地下ではマグマが蓄積されつつあると推定されます。

火山活動は、2018 年から 2019 年の活動と同程度あるいはそれ以上の状態で推移しており、今後、2014 年から 2015 年に匹敵する火山活動に発展する可能性も考えられます。

規模の大きな噴火に先行して、山麓での大きな地震の発生等の現象がみられることがあるため、今後の火山活動の変化を注意深く監視する必要があります。

口永良部島では 2020 年 1 月から 2 月にかけて、大きな噴石や火砕流を伴う噴火が時々発生しました。火山性地震、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量はいずれも多い状態で、2 月頃から新岳火口の熱活動も高まってきています。これらのことは、今後噴火活動がさらに活発化する可能性を示唆します。

GNSS 連続観測では、島内の基線において、2019 年 10 月頃からわずかな伸びがみられ、1 月頃から明瞭な伸びとなっています。このことから、地下ではマグマが蓄積されつつあると推定されます。その蓄積量は 2018 年から 2019 年の活動期を上まわり、2015 年噴火発生前の状態に匹敵しつつあります。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が多い状態も地下でのマグマ活動の活発化を示します。

2019 年 10 月以降の火山活動は、2018 年から 2019 年の火山活動と同程度以上で推移しており、2014 年から 2015 年に匹敵する火山活動に発展する可能性も考えられます。

口永良部島では、規模の大きな噴火に先行して、山麓での大きな地震の発生、新岳火口直下における火山性地震の増加、火山ガス（二酸化硫黄）放出量の減少などの現象がみられることもあるため、今後の火山活動の変化を注意深く監視する必要があります。